

Vol. 105

CONTENTS

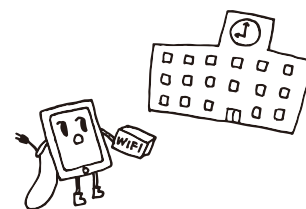
【コラム】1人1台学習者端末について考える… 望月 陽一郎

【解説】実践的演習を伴うサイバーセキュリティ公開講座の取り組み… 丸山 一貴・佐々木 伸彦・高谷 宏幸

【解説】再帰的思考のすすめ… 中川 正樹

COLUMN

1人1台学習者端末について考える



今回の2018年PISA調査の結果から読解力の低下が報道でとりあげられていますが、単なる読解力ではなく、「デジタルの世界で求められる読解力の低さ」、つまり日本の学校における「授業において子供たちにICT機器を使わせる場面の少なさ」「学習者端末が少なすぎる現状」が明らかになったことのほうが重大な課題だと考えます。政府から「小学校中学校の子供たち1人に1台ずつの学習者端末を整備」の話が出てきたのは、これまでも言われてきた自治体間の整備率の差を埋めるためにはやや遅すぎるとも思います。今の整備状況などを把握するため、学校の先生方・教育委員会の方々などを対象に「小学校中学校で使用する学習者端末」について、Web上でアンケートを行ってみました。関心の高さからか、数日で100以上の回答があり、あらためて現状が分かってきました。たとえば、現在の学習者端末の整備状況については、「コンピュータ室に40台」しかないという回答が34.6%、「コンピュータ室に40台+教室で使う端末が数クラス分程度」が33.6%、つまり70%近くが、コンピュータ室に行かなければ使う機会が少ない、ということです。この環境でデジタル情報を分析・理解し、活用する力を子供たちにつけさせようというのはやはり無理があり、だから1人1台学習者端末の整備が必要なのです。では1人1台端末が整備されたら、先生方はどのくらい子供たちに使わせるのでしょうか。アンケートの結果では、「ほぼ毎時間使わせたい」という回答が29.0%、「1日に数時間」が46.7%、「1日に1時間くらい」が15.9%でした。つまり90%をこえる人が、「毎日使わせたい」と思っている。先生方は「環境があれば子供たちに使わせたい」のです。

しかし、だからといって性急な整備、特に端末を入れることだけを考えた整備は、かえって使えない環境を生みます。これまでも「ネットに全員のパソコンをつないだら動かなくなった」という話は、学校ではよく聞いたものです。1人1台端末を支える校内の高速ネットワーク、学校からネットへの太い回線、端末を充電するための電源確保など、学校という施設を大きく作り変えるくらいのことをしないと、本当に「授業で子供たち一人ひとりが端末を使う」時代は来ないのではないのでしょうか。整備を担当する自治体の教育委員会の担当者がそういった俯瞰的な環境整備を構想することが必要であるとともに、外部からの適切なパッケージ提案が行われることが今一番大切なことだと思います。

望月陽一郎(大分県立芸術文化短期大学)